

TAPIO

タピオ・ヴィルカラ

世界の果て

THE SCULPTOR
OF
ULTIMA THULE



Tapio Wirkkala, *Balle*, 1966-1967, Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation collection /
EMMA - Espoo Museum of Modern Art, © Archivio Venini

WIRKKALA

2025.10.25 (土) — 2026.1.12 (月・祝)

岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリー I

〒507-0801 岐阜県多治見市東町 4-2-5 (セラミックパーク MINO 内)
TEL | 0572-28-3100 FAX | 0572-28-3101 URL | <https://www.cpm-gifu.jp/museum/>

EMMA
Espoo Museum of Modern Art



Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation



COLLECTION
KAKKONEN

IITALA



岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

TAPIO

タピオ・ヴィルカラ
世界の果て

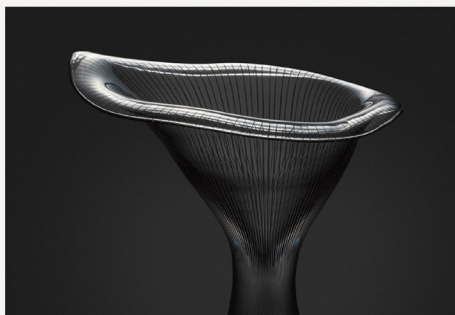
WIRKKALA

彼が触れるとあらゆる素材が心ゆさぶるかたちになった

フィンランドのモダンデザイン界で圧倒的な存在感を放つタピオ・ヴィルカラ (1915-1985) の日本初回顧展です。1946年、ガラス製造会社イッタラのデザインコンペ優勝を機にヴィルカラは同社のデザイナーに起用され、約40年にわたり第一線で活躍しました。セラミック・アーティストの妻ルート・ブリュック同様、ラップランドの静寂をこよなく愛し、生命の神秘や大自然の躍動を着想源に、「ウルティマ・ツール」(ラテン語で「世界の最北」を表す言葉)をはじめとするガラスの名作を誕生させました。デザインの対象はガラスのほか磁器、銀食器、宝飾品、照明、家具、紙幣、グラフィック、空間まで広くおよび、あらゆる素材に向き合い、触覚と視覚を鋭く働かせて生みだす洗練されたフォルムがヴィルカラの作品の見どころです。

また、神話をモチーフにしたガラスのオブジェや、自ら開発した積層合板を用いたオブジェにはプロダクト・デザイナーとは異なる表現者の顔ものぞかせます。

本展は、エスポー近代美術館、タピオ・ヴィルカラ ルート・ブリュック財団およびコレクション・カッコネンから厳選したプロダクトやオブジェ約300点に加え、制作過程や背景を明かすドローイング(複写)や写真を展示します。生誕110年、没後40年を迎える2025年、繊細にしてダイナミックなヴィルカラの造形の魅力に迫ります。



《カンタレリ / アンズダケ》1946年
Collection Kakkonen. © Rauno Träskelin



《アッサム (ティーポット)》1967年
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art. © Ari Karttunen / EMMA



《ペーパー・バッグ》1977年
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art. © Ari Karttunen / EMMA



《コティロ / 巻貝》1956年
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art. © Ari Karttunen / EMMA



《レヒティヴァティ / リーフ・ディッシュ》1950年代
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art.
© Ari Karttunen / EMMA



《ピアット・デイ・タピオ》1970年
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art. © Ari Karttunen / EMMA



《ウルティマ・ツール (ドリンキング・グラスのセット)》1968年
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art. © Ari Karttunen / EMMA



© Maarja Wirkkala, Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art



© Pirjo Honkasalo,
Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art

関連プログラム

講演会「素材から発生するデザイン（仮）」

2025年12月14日（日） 14:00–15:30
会場 岐阜県現代陶芸美術館・プロジェクトルーム
講師 吉泉 聡（TAKT PROJECT 代表 / デザイナー）

聴講無料・要事前申込（フォーム）
実験的な自主研究プロジェクトを通じて成果を挙げている、
気鋭のデザイナーによる語り。
【受付開始 11月15日（土） 10:00～】

ギャラリートーク

2025年11月2日（日）、12月7日（日）
2026年 1月4日（日） 各日14:00-
当館学芸員が展示解説をおこないます。
聴講無料（要観覧券）、事前申込不要

この他にも、会期中さまざまなプログラムを予定しています。詳細や各イベントの申し込み方法については、
当館ウェブサイトをご確認ください。ご来館に際してご不明な点がございましたら、お気軽に当館までお問い合わせください。

ワークショップ「ブッシュクラフトに挑戦（仮）」

2025年11月15日（土） 14:00–16:00
会場 セラミックパーク MINO
講師 越山 哲老（ブッシュインストラクター）
定員 15名
参加費 500円 要事前申込（フォーム）

北欧のナイフの話と、それらを使った気軽なアウトドア
（ブッシュクラフト）の体験。
【受付開始 10月11日（土） 10:00～】

こどもむかデー

2025年12月13日（土）
美術館内にゆったりスペースを設置します。小さなお子さん
ともリラックスしてお過ごしください。

同時開催 ギャラリーⅡ

美濃陶芸の系譜
若尾貞展

2025年10月11日（土）– 11月24日（月・休）

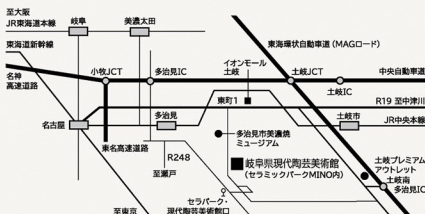
美濃陶芸の系譜
安藤日出武展

2025年11月29日（土）– 2026年1月25日（日）

令和6（2024）年度新収蔵品展Ⅱ/
コレクション・ハイレイト

2025年10月11日（土）– 2026年3月15日（日）

アクセス



〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5（セラミックパーク MINO 内）

TEL: 0572-28-3100 FAX: 0572-28-3101
URL: <https://www.cpm-gifu.jp/museum/>

公共交通機関でのアクセス

東京・大阪方面→名古屋駅でJR中央線に乗り換え/多治見駅から
◎タクシー約10分
◎多治見市コミュニティバス「オリベ観光ルート」約20分
→「セラミックパーク MINO」下車 ※土・日・祝のみ運行
◎東鉄バス「瑞浪駅前」「妻木上郷」「駄知」行き 約15分
→「セラパーク・現代陶芸美術館」下車→徒歩10分

お車でのアクセス

◎東京方面：東名高速→豊田JCT経由、新東名高速→豊田東JCT経由
◎富山方面：東海北陸自動車道→美濃関JCT経由
◎長野方面：中央自動車道→土岐JCT経由
→東海環状自動車道土岐南多治見ICから約5分
◎大阪方面：名神高速→小牧JCT経由
→中央自動車道多治見ICから国道19号を土岐・中津川方面に約10分
→「東町1」の交差点を右折



ウェブサイトはこちら



TAPIO WIRKKALA



©Tapio Wirkkala. Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection /
EMMA – Espoo Museum of Modern Art

THE SCULPTOR OF *ULTIMA THULE* タピオ・ヴィルカラ ———— 世界の果て

岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリー1

2025.10.25(土) — 2026.1.12(月・祝)

開館時間 10:00-18:00 (最終入館 17:30)
休館日 月曜日 (ただし、11月3日(月・祝)、11月24日(月・休)、1月12日(月・祝)は開館)、
11月4日(火)、11月25日(火)、年末年始(12月29日(月)–1月3日(土))
観覧料 一般 1,000 円 (900 円)、大学生 800 円 (700 円)、高校生以下無料
*() 内は 20 名以上の団体料金
*以下の手帳等をお持ちの方、および付き添いの方 1 名まで無料
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、特定医療費(指定難病)受給者証・登録者証

主催 岐阜県現代陶芸美術館
共催 中日新聞社、東海テレビ放送、TOKAI RADIO
企画協力 エスボー近代美術館、タピオ・ヴィルカラ ルート・ブリュック財団、ブルーシープ
特別協力 イッタラ
後援 フィンランド大使館、フィンランドセンター

